



インフルエンザに注意しましょう！



問い合わせ
保健医療課

☎(55)27309
☎(53)55586

インフルエンザの流行する時期が近づきました。インフルエンザは感染力が非常に強く、高熱や関節痛など全身に症状が出るのが特徴です。まずは、一人一人が予防に努め、感染を避けるとともに、感染してしまつた場合は、周りの人につさないよう注意しましょう。

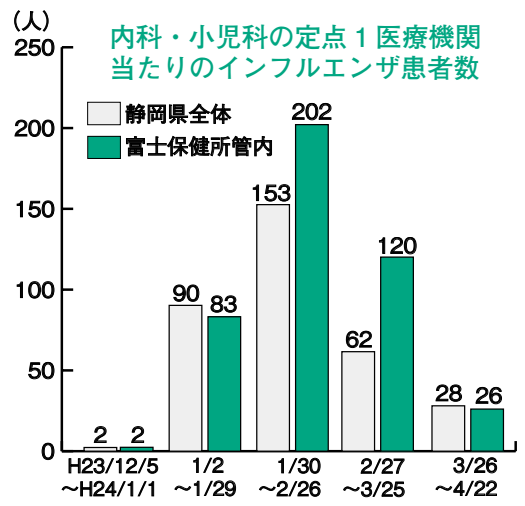
どのような症状が出るの？

目安としては、38度以上の発熱があり、せきやのどの痛みに加え、頭痛や関節痛を伴う場合は、インフルエンザに感染している可能性があります。早目にかかりつけの内科・小児科を受診しましょう。特に、乳幼児や高齢者は重症化しやすいので注意が必要です。

重症化のサイン

- 子どもでは
 - けいれん、呼びかけに反応しない
 - 呼吸が速く、苦しそう
 - 顔色が悪い(青白い)
 - はき気・下痢が続く
 - 症状が長引いて悪化
- 大人では
 - 呼吸困難、または息切れがある
 - 胸の痛みが続く
 - はき気・下痢が続く

医療機関当たりのインフルエンザ患者数



1~3月に患者数が急増

右グラフは、定点医療機関(県により定められた県内全体139か所・富士保健所管内15か所の内科・小児科)の1医療機関当たりのインフルエンザ患者数です。流行開始の目安とされている報告数は1で、10を超えると注意報レベル、30を超えると警報レベルになります。1~3月は、患者数が急激にふえます。

自分でできる予防対策は？

- 外出後は、小まめに、丁寧に手洗い。石けんなどを使ってしっかりと洗い、きれいなタオルなどで十分にふき取りましょう。アルコール消毒も効果的です。
- 十分な栄養と睡眠をとって健康管理。健康管理も重要。栄養と睡眠を十分にとり、抵抗力を高めておきましょう。
- 予防接種も効果的な予防法の一つ。予防接種はインフルエンザ発症の可能性を減らし、もし発症しても重い症状になるのを防ぎます。毎年定期的な接種が有効です。

インフルエンザにかかってしまったら？

- 早目に医療機関で受診。医師が必要と認める場合、「抗インフルエンザ薬」が処方されます。
- 小まめな水分補給。脱水症状を予防するために、小まめな水分の補給が必要です。
- せき、くしゃみなどの症状があるときはマスクを着用。
- 同居の家族、特に乳幼児や高齢者などにはできるだけ接触しないようにする。

予防接種費用を助成します

市では、次の助成制度を設けています。

子ども

- 対象者/満1歳~高校3年生相当年齢
- 接種期間/10月1日~平成25年2月28日

- 持ち物/母子健康手帳、年齢と住所が確認できるもの
- 公費負担回数/1歳~13歳未満 2回
- 公費負担/1回の接種につき1000円を助成

- ※生活保護世帯、市民税非課税世帯などの人に対して、接種費用の全額公費負担はありません。
- 高齢者
 - 対象者/65歳以上、または60歳~64歳で予防接種法に定められている人
 - 接種期間/10月1日~平成25年1月31日
 - 持ち物/年齢と住所が確認できる保険証、運転免許証など
 - 公費負担回数/1回
 - 自己負担/1000円(生活保護世帯の人は無料)

※市民税非課税世帯などの人に対して、接種費用の全額公費負担はありません。

予防接種の助成に関する問い合わせ

健康対策課(フイランセ)
☎(64)80992 ☎(64)7172